

令和 8 年第 1 回 えびの市公共工事入札・契約監視委員会
会議録概要

令和 8 年 1 月 13 日（火）午後 2 時から午後 3 時 30 分まで
宮崎市 ひまわり荘 中会議室「尾鈴」

調査及び審議事項

① 公共工事の入札及び契約手続きの運用状況に関すること

市：令和 7 年 4 月 1 日から令和 7 年 9 月 30 日までの令和 7 年度上半期における予定価格が 130 万円を超える工事の入札・契約状況は次のとおり。

・ 一般競争入札	件数	1 件	契約金額	3,434,904,000 円
・ 指名競争入札	件数	55 件	契約金額	553,216,229 円
・ 随意契約	件数	1 件	契約金額	1,497,100 円

調査及び審議事項

② 公共工事のうち談合情報が寄せられたものについて、市の対応状況に関すること

市：談合情報が寄せられた工事はなかった。

調査及び審議事項

③ 抽出された公共工事に係る入札参加資格の設定、入札参加者の指名、随意契約の理由等に関すること

委員： 抽出に当たっては、競争性の確保の観点から、落札率の高いものに着目した。また、大規模案件、契約辞退等の応札状況が不明な事案についても抽出対象とした。

事案 1 えびの市美化センター基幹的設備改良工事

委員：[抽出理由] 30 億円を超える大規模案件であること、また、条件付き一般競争入札だが 1 者応札であったとのことなので、この工事の内容及び経緯について説明いただきたい。

・ 担当課	市民環境課（美化センター）
・ 工事概要	処理規模 70 t / 日 機械設備等の更新
・ 入札参加資格	清掃施設工事の許可のある者のうち実績のある者 同様の工事を行う自治体で採用されている資格条件を設定
・ 申込業者数	1 者
・ 入札公告期間	令和 7 年 4 月 2 日～令和 7 年 4 月 30 日
・ 入札参加資格等審査会	令和 7 年 5 月 2 日
・ 入札開札日	令和 7 年 5 月 14 日
・ 契約締結日	令和 7 年 6 月 19 日（議決日）

市： 本施設は、市内の一般廃棄物を処理する施設である。稼働から 29 年目を迎え、設備が老朽化したことから、長寿命化を目的として、環境省の交付金等を活用し基幹的設備改良を行う工事である。本工事は令和 5 年度に長寿命化総合計画を策定し、健全度の評価等を参考に、改修箇所の設定を行い、令和 6 年度には長寿命化総合計画に基づく基幹的設備改良工事発注支援業務を委託、工事の発注仕様書の作成や工事に係る価格を積算した。発注方式は、施工実績、企業の安定経営状況、配置技術者の確保などの特定の条件を設けることによって、不良不適格業者の入札を防止すること、条件を満たす事業所であれば誰でも入札に参加でき、競争性を図ることなどが見込まれることから条件付き一般競争入札とした。入札については予定価格を事前に公表し、令和 7 年 4 月 2 日より 4 月 30 日までホームページにて公表した。一般競争入札を導入し、競争が働くよう工夫をしたが、結果、1 社の応札になったもの。落札した業者については 29 年前に今回工事対象の美化センターを建設した事業所となっている。また 100%の落札率については市の積算と事業所の積算が一致した結果であると推察している。

委員： 条件を満たす業者はどれくらいあると把握されていたか。

市： 20 者あった。

委員： 契約期間は。

市： 令和 7 年から令和 10 年度 4 年間の工事である。令和 7 年は設計の年としている。

委員： 環境省の補助金との関係をお聞きしたい。

市： 長寿命化総合計画に基づき環境省の補助金を活用する。補助率は事業費の 3 分の 1 である。おおよそ工事費の 80% ぐらいが補助対象事業費になると考えている。なお、補助金は年度毎に交付される見込みである。

事案 2 令和 7 年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 尾八重野 3 期地区 水路改修工事

事案 3 令和 6 年災害 第 162 号 堀迫川 河川災害復旧工事

委員：[抽出理由] どちらも落札率が高い。その経緯や理由を説明いただきたい。

《事案 2》

- ・ 担当課 農林整備課
- ・ 工事概要 施工延長 L=87.58m
側溝設置 U-I 300 L=107.5m U-I 600 L=85.9m
- ・ 工事ランク 土木 B
- ・ 指名業者数 8 者 事業規模に応じた等級区分による指名
- ・ 入札辞退者 なし
- ・ 最低制限価格未満の入札 なし
- ・ 予定価格（消費税込） 13,699,400 円
- ・ 最低制限価格 12,124,050 円
- ・ 契約額（消費税込） 13,637,800 円
- ・ 落札率 99.55%

《事案 3》

- ・ 担当課 建設課
- ・ 工事概要 復旧延長 L=33.5m(RL33.5m) ブロック積 A=68m
構造物取壊工 V=1.7m³ 倒木除去 N=1 箇所
土のう積 A=1.8 m² 掛樋工 L=40.0m
- ・ 工事ランク 土木 B
- ・ 指名業者数 8 者 事業規模に応じた等級区分による指名
- ・ 入札辞退者 2 者
- ・ 最低制限価格未満の入札 なし
- ・ 予定価格（消費税込） 7,690,100 円
- ・ 最低制限価格 6,837,505 円
- ・ 契約額（消費税込） 7,645,000 円
- ・ 落札率 99.41%

市： （事案 2）本工事区間内には複数の水道管や農業用パイプラインが埋設されていたため特記仕様書で埋設物の事前調査を行うことを定めていた。そのため掘削の際の作業効率が低下し工事の進行に影響が生じる可能性があることと見込まれたことにより積極的な入札とならず、入札率が高くなったものと推察している。

（事案 3）令和 6 年 8 月の台風豪雨により被災した市の河川の護岸を復旧する工事である。工事規模に応じて当初、令和 7 年 8 月 21 日に土木 C ランクで入札を執行したが、結果全者辞退し入

札不調となったため土木Bランクへ指名業者を変更、令和7年9月18日に入札を執行したところ8者中6者の応札があったところ。河川内の工事であり河川の水を切り替えながらブロック積みを行うこと、作業スペースが限られていることから作業効率が悪く、積極的な入札とならず落札率が高かったものと推察している。

委員： 場所が行きにくいイメージから落札率が高くなっているのか。土木Bの方たちには工事の案件としても難しいものなのか。手がすいてそうな時期なのに落札率がと高くなってるのが気になる。

市： 案件2については地下埋設物が多いということで掘削等が進捗進行に影響を受けると考え敬遠されたのではないかと推察している。

委員： 埋設物は具体的には。

市： 上水道施設が1本、地元の簡易水道が1本、農業用パイプラインが2本入っており合計4本である。

事案4 令和7年度 社会資本整備総合交付金事業 市道栗下上江線 歩道設置工事

委員：[抽出理由] 落札率が100%。1社辞退しているが、他の全ての事業者が100%、1000円差などで入札している。このことについて経緯を説明いただきたい。

・ 担当課	建設課
・ 工事概要	延長 L=141.0m、歩道舗装工 A=192㎡、 本線舗装工 A=556㎡、管渠型側溝 L=31.0m ガッター工 L=127.1m
・ 工事ランク	土木A
・ 指名業者数	5者 事業規模に応じた等級区分による指名
・ 入札辞退者	1者
・ 最低制限価格未満の入札	なし
・ 予定価格（消費税込）	30,878,100円
・ 最低制限価格（消費税込）	27,757,108円
・ 契約額（消費税込）	30,877,000円
・ 落札率	100.00%

市： 本工事はえびの市の東部地区と中部地区を結ぶ通勤や通学に利用されている本路線を歩行者及び車両の安全な通行環境を確保するため歩道を新たに設置する工事である。工事区間が2つの工区に分かれていること、歩道設置工事だけではなく、車道部の路盤入れ替えやその他複数の構造物の工事が含まれていたことにより、作業効率は比較的悪い現場条件と認識され、積極的な入札がなされなかったものと推察している。

委員： 2つの工区に分かれているところは積算ではカバーしていると思うが、これを2つの工事に分けた場合はどうなるか。

市： 別々に発注するという方法もあるが、工事費総額が増える。また、別々の業者が入ったときに安全管理が錯綜するおそれがある。そのため100mほど離れているが、1つの工事として発注した。

委員： 場所を分けて工事を発注したとき、使っている素材が違うなどという状況は想定されるか。

市： 同様に歩道を設置する工事であり、場所が離れても工事内容としては同じものとなる。

委員： 土木Aで発注しているが、工事の難易度としては土木Aでないと施工できないような内容なの

か。

市： 本工事は特別な構造物はなく、側溝を入れて舗装をする工事であり、今回は 3000 万円を超える価格のため土木A発注となったところ。

委員： アスファルト舗装は寿命が短い。これに対してコンクリート舗装は寿命が長い。国の方はトータルコスト、ライフサイクルコストを勘案して、どちらで発注すべきかというのを十分検討した上で発注するとしている。市の方でも何か考え方を持っているか。

市： ほとんどの舗装工事をアスファルト舗装で実施しているが、補修工事も出てきているので今後の検討課題だと考えている。

事案5 令和7年度市道大河平茶屋平線道路災害復旧工事

委員：[抽出理由] 土木Cで他の事案は 90%前後ぐらいの入札が多い中、本事案は落札者以外全者辞退で 1 社が 100%で落札している。この経緯について説明いただきたい。

・ 担当課	建設課
・ 工事概要	復旧延長 L=4.0m、 重力式擁壁 L=4.0m
・ 工事ランク	土木C
・ 指名業者数	14 者 事業規模に応じた等級区分による指名
・ 入札辞退者	13 者
・ 最低制限価格未満の入札	なし
・ 予定価格（消費税込）	1,383,800 円
・ 最低制限価格（消費税込）	1,229,040 円
・ 契約額（消費税込）	1,383,800 円
・ 落札率	100.00%

市： 本工事は豪雨により路面水位が 1 か所に集中し道路路肩が崩壊したため現場打ちコンクリート擁壁にて道路路肩を復旧する工事である。辞退者が多かった理由としては、工事箇所が比較的交通量の多い中で交通規制を伴いながら施工する必要があったこと、作業スペースが限られているなどの現場条件から、作業効率を考慮し積極的な入札とはならなかったものと推察している。

委員： 他にも入札が同時に多く出ていたのか。

市： 同じ日に土木Cが 4 件、舗装Cが 1 件、土木Bが 1 件の計 6 件の入札をしている。

委員： 既成の擁壁を据え付けるという選択はなかったのか。

市： L型擁壁の設置も検討したが、現場が橋のたもとで河川に面しており、現場打ちコンクリートで現場に合わせた形で災害復旧する必要があった。

事案6 令和7年度 市道御江殿線防草対策工事

委員：[抽出理由] 随意契約の内容と適正性を説明いただきたい。

・ 担当課	建設課
・ 工事概要	ウィードコート工法 立上り施工 160m 平場施工 100m
・ 見積合わせ通知年月日	令和7年4月25日

- | | |
|--------------|----------------|
| ・ 見積合わせ提出日 | 令和 7 年 5 月 1 日 |
| ・ 見積回数 | 1 回 |
| ・ 予定価格（消費税込） | 1,497,100 円 |
| ・ 契約額（消費税込） | 1,497,100 円 |
| ・ 落札率 | 100.00% |

市： 本工事は道路舗装の継ぎ目や構造物の目地から出てくる雑草を防ぐ防草対策の工事であり液状の硬化剤を塗布するウィードコート工法を採用している。本工法は特許を取得しており国土交通省の九州地方整備局が有用な新技術として推薦をしている工法で、10 年以上の耐久性が確認をされている。他に類似する方法がなく、従来の工法と比較しても、耐久性や施工性、コスト等を検討したところ優れているという判断をし、この工法を採用した。なお、この工法の取扱い及び施工可能な業者を調べたところ、県内にはなく、近傍で鹿児島の方に 1 社だけあったため、その 1 社と随意契約を行った。

委員： この工法で毎年発注していく事になるのか。

市： 維持管理を軽減するという意味今後もこのような対策工事は必要となってくるとは考えているが、他の方法も含めて総合的に検討しながら設計していきたい。

委員： いくつかの工法を比較検討した上でこの工法を採用したということか。

市： 他にシートを張る方法などあるが、今回はこの方法が最も優れているという判断で実施したところ。

市長へ報告する調査及び審議の結果、又は市長に対する意見等

特になし